

【山崎名誉主宰の俳句】

溷濁

山崎 聰

雪の夜をあかあかとおり玉手箱
窓際の心地よき位置蝌蚪の昼
一歩一歩奈落へ近く春の雪

おちこち

遠近にたんぽぽ咲いて人の忌日
なにもかも遠くになって春のゆうやけ
春の月ゆっくり行こう彼の岸へ
君の名はと訊かれ戸惑う春の暮
呆気なく四月がおわり山の上
誰にもあるほのかな時間ほととぎす
溷濁のこの世かの世の望潮